



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島教区 電話099(226)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円

道標



教区の皆さん新年明けましておめでとうございませう。今年も皆さんの心が主の息吹のうちに益々元気になることを願いながら共に歩んで行きたいと思っております。よろしくお願いいたします。

正常化献金の継続

ところで、昨年はネット宣教元年として小教区のホームページの充実を目指してまいりました。この努力は今後も継続してまいります。今年も昨年十一月三日の教区評議会を受けて、教区の財政正常化を巡ってお話したいと思っております。

「この会議では経済的自立ということだけを考えるのではなく、どんな教会を作りたかという念頭を念頭に置きながら話し合ってください」と申し上げました。幸い皆さんからは貴重な発言が多く寄せられました。皆さんの発言や提案を経済問題評議会にも諮ったうえで司祭評議会でも最終的な結論を出すことができました。先ず皆さんにお詫びをしなければならぬことがあります。今年以降は「財政正常化献金」は中止するとしてまいりましたが、財源のメドが立たないことから当分は継続させて頂くことになりました。当分というのは正常化が実現するまでということであって、正常化とは「司祭の寄付金に頼らない教区財政」ということです。会議でも盛んに指摘さ

れたように高齢化が進む現状の中でこうした大きな目標を達成することは容易ではありません。財政正常化に向けての具体的な提案は別にさせて頂きませんがその前には是非お話ししたいことがあります。これからお話しすることはとても大切なことですので皆さんにもよく考えて頂きたいと思っております。

年頭書簡

温かな関わりの教会を目指して

鹿兒島教区長 郡山健次郎

アニメーターたる司祭

現在二十七の小教区があります。つまり、二十七人の司祭が常住しているわけですね。焼失その他の非常事態が起こらない限り、少なくとも私の任期中はこの体制を変更するつもりはありません。私は、この二十七人の司祭を皆さんを霊的に養う牧者として派遣しました。み言葉を説くことは信徒の皆さんでも可能ですが、ミサは司祭の特権です。ですから、どんな司祭であろうと先ずこの点を心に留めて頂きたいと思っております。子供の頃こんな話を聞かされたことがありません。「向こうから司祭と天使が並んでやってくるとして最初に誰に挨拶するかといえば司祭です。なぜなら司祭はパンとぶどう酒を聖化する特

別のお恵みを頂いているからです。天使であつてもミサをささげることにはできません。何時までも忘れないで心にしっかりと残っています。

それで、自分の弱さや足りなさを十分認めながらですが、同じ仲間として先ず司祭の皆さんにお願いがあります。先ず、「牧者はリ

ダーではなくアニメーターである」との認識を持って頂きたいのです。何かの問題解決にはある程度のリーダーシップは求められるでしょうが、信徒の魂の活性化に強いリーダーシップは必ずしも必要ではありません。信徒は責任ある社会人として世の中で生きています。ですから、大切なことは信徒を信頼し、その声に耳を傾け、共に歩もうとすることです。真の牧者はイエスご自身お一人であつて、私たちが司祭も羊の一人に過ぎないのですから。

「小教区難民」という言葉を聞いたことがあります。自分の所属する小教区を離れてよその小教区に移籍したり、ミサにあずかっただけの信者のことださうです。主任司祭と一緒に歩いてく

「それでも…」の思い新たに!

二〇一一年 鹿兒島教区司祭団

司教 郡山健次郎
名誉司教 糸永真一
司教総代理 小川靖忠

鹿兒島地区 東 研(始良)、寝占教之(指宿)、泉浩二(加世田)、小川靖忠(ザビエル)、G・ティエン(鴨池)、J・ムイベルガ、W・フリチェル、J・ハンマ(谷山)、S・ロベルト(玉里)、竹山 昭(紫原)、牧山田一(吉野)、坂本 進(種子島)、国原武志(国分)、永山幸弘(マリア山荘)、中野裕明、松森孝郎、O・ベルナルディーノ、松田清四朗(教区本部)、丸野六雄(研修の家・ザビエル協力司祭)、山口好信(研修の家・鴨池協力司祭)、岡 俊郎(純心鹿兒島修道院)、田辺 徹、成相明人、田原 章(引退)、末吉卓也、浜崎眞実(出向)
北薩地区 大松正弘(出水)、山口重義(阿久根)、M・アッシャー(入来)、J・レヒナ(大口)、橋口啓悟(川内)
大隅地区 J・タム(鹿屋)、美島春雄(志布志)
大島地区 松永正男(大笠利)、栴尾泰英(瀬留)、P・アン(大熊)、小隈憲士(名瀬聖心・地区長)、J・ドゥン(小宿)、榊 修(古仁屋)、平 孝之、柳本繁春(古田町)、大野和夫(名瀬聖心協力司祭)
徳之島地区 福崎英雄、T・メニッヒ(母間)、H・ハヌス(和泊)

敬称略

神学校で聞かされた言葉です。「もったいない司祭になつて欲しい」というのは信者の願いであるだけでなく私たちを呼ばれたお方の願いでもあるのです。ですから司祭は孤独の祈りを深め、ていねいにミサをささげ続けなければならぬのです。そして、司祭にとつてミサが祈りとなるとき、ミサこそが自分を律していくための神との対話の時間となるでしょう。自分に託された信者一人ひとりをパンとぶどう酒と共に御父にささげ、その聖変化を祈り続けていく。これが小教区司祭の一義的使命であることを心に留めて頂きたいと思っております。そういう意味での牧者でありアニメーターであり霊的父でもあることを強調したいと思っております。

神の慈しみの結果としての司祭・信徒

ところで、信徒の皆さん、皆さんの司祭たちを大事にして頂きたいと思っております。司祭が欠点の多い人間でありながら、それでも神さまの特別の計らいでキリストの司祭として聖別された者であることを誰よりもわきまえているのは実は司祭たち自身なのです。そういう私も、「司教様」として歓迎されたり遇されたりすることには身分不相応な感じをぬぐえないでいました。

しかし、この粗末な欠点だらけのわが身にまもつていくキリストの「司教職」こそが信者たちの心を駆り立て歓迎する根拠なのだと思つては少し時間が経つて気がした。個人的過ぎるのですが、皆さんが主任司祭を見るときに参考にさせて頂きたいと思つていました。繰り返しますが、叙階の秘蹟は神さまの神秘に満ちた慈しみの結果なのです。

実は、洗礼を受けているということも同じ神さまの慈しみの結果であるわけですが、それは皆さんが日々実感しておられることです。自分の弱さや罪深さをどんなに認めても信仰を捨てたりしないのは、この神さまの不思議な慈しみを信じているからなのです。ですから、皆さんが主任司祭を見るときにも、同じような信仰の眼を向けて頂きたいのです。「だから我慢しなさい」と言うのではなく、私たちが集められた霊的な家族ですから、この視点を失った常識の支配するただの集団になつてしまつては困ります。「ただの集団になつては困るではないか。」このことがいつも気がかりなのです。

「それでも…」を合言葉に こうしたことを前提にして具体的な提案をさせて頂きたいと思つてます。先ず一つは先ほど司祭たちにお願

この一年も神さまからの豊かな祝福のもと健やかな日々であるよう心から祈ります。

I 主任神父様の歓迎の言葉(大口教会：レヒナ神父様)

II 祈りを持って始める。特に三位一体の神を信じ、従う恵みを求めて代表者が祈ります。

前回は続き、『信仰宣言』の子に關しての③「イエスの死と復活」について神学的にどのよう捉えたらいいのか、今回も学びを中心としながら深めて行きたいと思ひます。参考文献としては「カトリック教会のカテキズム」(カトリック中央協議会発行、二〇〇二年発行)、『信仰宣言』のカテケシス(福音宣教師、竹山昭神父様)を使用致します。

③ イエスの死と復活について(前掲書五七一～六五八項参照)

使徒信条「ポンティオ・ピラトのもとで苦しみを受けて、十字架につけられて死に、葬られ、陰府に下り、三日目に死者のうちから復活し」

「十字架上の死と復活というキリストの過越しの神秘は、使徒たちおよび彼らに続く教会が世界に告げ知らせるべき福音の核心をなしています」(前掲書五七一項)「イエスの受難は長老、祭司長、律法学者たちから排斥され、侮辱し、鞭打ち、十字架刑に処するために異邦人に引き渡したために歴史的な出来事になりました」(五七二項)「イエスはその行動(悪魔払い、罪の赦し、安息日に癒す、浄・不浄に対する独自の説明、徴税人や罪人との親交)のために祭司長、律法学者、ファリサイ派、ヘロデ党の人々の目には悪霊に取りつかれて見えた。彼はイエスを、神を冒瀆する者、偽りの預言者、律法

による石打の死刑にあたる罪を犯す者として糾弾します」(五七四項)

イエスの十字架の上での死は何を私たちに語っているのでしょうか？弟子たちや現代の私たちにとつても救い主の十字架での死は衝撃的な出来事であり、惨めで残酷な死と映り、ユダヤ人にとつてはさらに「神に呪われた者の死」(申命記21・23)と受け取られました。新約聖書の時代からこの蹟を乗り越えようと様々な試みがなされてきました。ここでその歴史を辿ることも、主要な解釈すら、取り上げる余裕もありません。以下に竹山神父様が指摘されている二点を引用したいと思います。

北薩地区宣教奉仕者(信徒使徒職)養成講座

信仰宣言を神学的に捉える④

出水教会主任司祭 大松 正 弘

「なぜ御父はあのような死を望まれたのかと、多くの人が持つ素朴な疑問かもしれない。この疑問の背後に御父が御子を遣わされたのは、十字架の死のためであったという考えがあるならそれは誤りであろう。聖書のどこにもそんな考えはない。御父の望みはイエスを人々が信じて受け入れること、イエスにおいて御父の救いを信じて受け入れることにあった。ではなぜ現実には十字架の死に至るかといえ、イエスはあくまで御父から受けた使命を貫き通そうと、人々をあくまで拒んだからである。イエスの死は人間の側の拒みの結実である。と同時にイエスが御父

に從い通したことの具体的結果でもあった。…中略：子としての従順と奉獻が、父に対する子としての愛の具体的な形であるなら、イエスの愛が十字架の死の内容になる。さらにそれはわたしたちへのイエスの愛ということにもなる。愛はいつも具体的に生きた愛の愛のみ、真実の愛となる。」

「旧約時代の預言者の場合、その真偽を識別するしるしは預言が成就するかどうかにあった。イエスの場合、彼とともに神の救いの時が始まり、神はその愛と赦しを信じる人々にもたらしているのだという救いの訪れを説いた。預言者の場合以上に、ひとえにそれが

自分に先んじた正しい人々を解放するためと教会は理解しています。(前掲書六三二～六三五項)

『三日目に死者のうちから復活し』

聖書の中で、弟子たちは復活されたイエスとの出会いを力強く証言しています。復活されたイエスは触らせたり、食事をともにしたり、直接、弟子たちと関わられました。ご自分が亡霊ではないこと、十字架につけられたからだと同じである事を納得させようとされます。しかしこのからだは同時に栄光のからだの新しい特性を備えています。もはや時空には置かれず、望む所と時に思ひのまま存在できます。(前掲書六四六項)復活

復活信仰が含むもの

復活信仰で私たちが信じるものは①復活を父なる神の業とみると、生と死を超えた新しい生命の力に満ちたお方を拠り所として生きる事を決断すること。②神への愛がどこを目指し、信じるものがどこに招かれて

復活信仰が含むもの(前掲書一八) 復活信仰で私たちが信じるものは①復活を父なる神の業とみると、生と死を超えた新しい生命の力に満ちたお方を拠り所として生きる事を決断すること。②神への愛がどこを目指し、信じるものがどこに招かれて

[和善の窓から] その⑮ 和善の聖書へのお誘い

松田清四朗神父 皆さま、新年明けましておめでとうございます！ 聖書研究は「人のことばの研究」：何時頃から「人間のことば」を意識するようになったのだろうか。ある病院で、2週間、毎日入院中の病気の方々と面接し、その面接の一部始終をレポートし、そのレポートに従ってスーパーバイザーやメンバーたちと分かち合いをするというトレーニングを受けたことがある。その1人に福音ルーテル神学校の教授がいた。そのアメリカ人教授から忘れることのできない励ましを受けた。「マツダさん、人間のことばも大切に研究しましょうね」。多分その時から、長い間意識されてはいなかったが、自分の中では「人間のことば」研究も始まっていたのだと思う。 和善聖書研究は、実は人間の言葉の研究な



のかもしれない。あるいは、人間の言葉研究の裏返しが和善聖書研究なのかもしれない。最近とみにそう思うようになった自分に気づいている。フォーカシングという形で、ここ半年あまり月2回、定期的に、人々の物語に心耳を傾けている。そのセッション中、いつも「今人間の言葉！を聴いている」という実感がして、なぜか、心の奥の方で、ありがたいという感謝の念が湧き上がる。ぼくは、「キリストの涙」を聴いているのかもしれない…。 ~和善の案内~ (何時からでもどうぞ) 2011年1月10日(月)開始 ●月18時30分 ●水14時00分(第2,4 於始良) ●水 WAZEN ころろ相談室(第1,3: 要予約 = 10時10分から = 45分間) ●金10時00分 ※いずれも本部3階にて ●和善のミサ 1月14日(金)17時30分 (和善ブログ http://mr826.net/wazen/blog)

+KABAYAN SEKSIYON+ "PAGPAPATULOY NG MGA TANONG AT MGA SAGOT" T-Sinu-sino ang mga "di-naniniwala" ngayon? S-Ang mga "di-naniniwala" ngayon ay: *ang mga praktikal na walang-kinikilalang Diyos na ang hangad lamang ay magkamit ng kayaman, katanyagan, o kapangyarihan kaya wala na silang panahon para sa Diyos; *o ang iba na nagpapahayag na mayroon silang di-pangkaniwang kaalaman at kapangyarihan mula sa Diyos. Alin man dito'y hindi kumakatawan sa tunay na Pananampalatayang Kristiyanong kay Jesu-Kristo. T-Paano tayo makatutugon sa kawalan ng paniniwala sa doktrina? S-Kailangan natin ang pinanibagong katekesis sa katotohanan ng Ebanghelyong nakasentro kay Kristo, na tumawag sa ating tumugon sa tawag ng Kristiyanong paglilingkod sa ating kapwa-tao at sa tunay na pagsamba sa ating mapagmahal na Ama sa Espiritu at sa katotohanan, sa Kristiyanong sambayanan. T-Paano tayo makatutugon sa kawalan ng paniniwala ng "HINDI paggawa?" S-Ipinapakita ng "pinanibagong panlipunan paglilingkod" ang mahalagang pagpapahalagang-pantao ng pagsunod kay Kristo ngayon sa konkreong paglilingkod sa mahihirap at inaapi tungo sa pagbabagong panlipunan. T-Paano tayo makatutugon sa kawalan ng paniniwala ng "HINDI pagsamba?" S-Ang panawagan sa "pinanibagong pagsamba" ay makakatulong sa tunay na pag-unawa ng Kristiyanong pagsamba sa Diyos atinang Ama, sa pamamagitan ni Kristong Anak Niyang-maging-tao, sa kanilang Espiritu Santo. Kailangan ang masugid na pag-aaral na may kaugnayan sa personal at umiiral na pagsamba sa liturhikal na pagsamba ng Simbahan. Kaya ang paparating na bagong taon, maging bago sana ang ating mga pananampalataya!

地元民と宣教魂を学ぶ

屋久島で「シドゥッチ祭」

イタリア人宣教師ジョバンニ・パティスタ・シドゥッチ神父の遺徳を偲ぶ「シドゥッチ祭」が十一月二十三日(火)、屋久島町小島の公民館で開かれた。

シドゥッチ神父は、キリスト教禁教令下の1708年、宣教のために屋久島に上陸したもののすぐに捕縛され江戸に送られた。江戸では新井白石の取り調べを受け、それをもとにして白石は「西洋紀聞」「采覧異言」などを著し、これが西洋文明導入・開国へとつながったとされている。シドゥッチ神父は、一七一五年幽閉先の江戸キリシタン屋敷で、神父の身の回りの世話をしていた長助・ハル夫妻に洗

礼を受けた罪で殉教したとされている。長年、地元の有志と教会が協力して開催してきた「シドゥッチ祭」だが、今年も郡山司教をはじめ、教区内から数人が出席し、地元信者や有志たちと共に古居智子さん(作家)などからシドゥッチ神父に関する講演を聞き、その遺業を回想した。

種子島ではカタリナ祭

島津光久の祖母堅野永俊は洗礼名カタリナで、禁教令下にあってもキリスト教の信仰を捨てず、また信者

故人安息碑を設置 和光園教会

十一月二十一日(日)和光園教会(大熊小教区・主任司祭アン神父)に、これまで亡くなった方の名札を掲げた安息碑が完成し、その祝別式が奄美大島の地区長・小隈憲士神父によって行われました。奄美大島内の教会では、

かなり古くからあり、種子島教会の信者たちがその墓前で祈りをささげるなどしてきていたが、今年は市民グループが「カタリナ祭実行委員会」を組織し、西之表市や同市の商工会、観光協会、教育委員会などの協力を得て、記念講演や原口泉鹿児島大学教授や郷土史家、郡山司教によるシンポジウムなどを行い、記念祭を盛り上げた。



古田町教会、知名瀬教会に死者の名札を掲げた安息碑があるのですが、ハンセン病療養所内にあるこの和光園教会では、本人だけが信者で「自分が死んだ後、祈ってくれる人はいない」との思いが特に強く、教会共同体で死者を回想し祈ることのようなものが欲しいとの願

1月の会と催し

- 1日(土) 神の母聖マリア 世界平和の日
- 2日(日) 主の公現
- 4日(火) 教区司祭会・教区本部・16時 ルカ神父命日(1998年) 七田八十吉神父命日(1980年)
- 5日(水) レデンプトル会例会
- 9日(日) 主の洗礼
- 14日(金) 永島泰蔵神父命日(2002年)
- 16日(日) 年間第二主日
- 18日(火) キリスト教一致祈禱週間・～25日
- 19日(水) ハイシク神父命日(1989年)
- 23日(日) 年間第三主日
- 25日(月) 郡山健次郎司教霊名(聖パウロの回心)
- 26日(火) フェリュ神父命日(1919年)
- 30日(日) 年間第四主日 カトリック児童福祉の日(献金)
- 31日(月) 司祭大会・鹿児島市・～2月3日 司祭評議会・教区本部・14時

浦上教会には掲示板設置

十一月五日(金)、浦上教会に長年の懸案だった掲示板設置が実現しました。設置された掲示板ですが、一つは聖堂玄関横に信徒向けとして、もう一つは聖堂入口の市道側に道行く人々のためです。掲示板



ば、イエス様と出会う洗礼を受けるまでの期間は準備の期間である旧約時代を生きていたと言えます。幼児洗礼の人も成人するまで、準備の期間として旧約時代を生きたらなければなりません。旧約なくして新約はないからです。具体的には律法を忠実に生きることです。

「短信」

鹿児島純心女子短期大学(平山久美子学長)は、十二月八日(水)創立五十周年の式典を開いた。式典では、学内で郡山司教司式による感謝ミサがさげられ、その後、宝山ホールで視覚障害のあるバイオリニスト川島成道さんの記念演奏などがあった。

新管区長に盛神父

レデンプトル会鹿児島管区では、一月一日付で管区長の交代を発表した。新しい管区長には、これまでヨルダン・ハンマ神父に代わり盛克志神父(五十二歳)が就任した。

愛の聖母の子どもたち

十二月十一日(土)高齢者の集い「ゆらいあい」で、愛の聖母園の子どもたちがハンドベルの演奏でお年寄りにクリスマスを伝えた。

司教執務室便り

五百円元年



年頭の挨拶でも触れた通り財政正常化献金は継続となりました。「教区の財政が正常化するまで」と聞けば気が遠くなりませんが、そのことに関して提案したいことがあります。それは、献金に対する新しい発想になると思います。いや、教会維持費に関しても画期的成果を収めることになると思います。

先ず、「毎月五百円」と義務的に固定化した考えではなく、「自分たちの教会は自分たちの手で」という思いを大事にしていただきたいと思います。

個人的なことになりますが、私はアジアの友人たちのために五百円貯金をしています。買い物のお釣りに五百円がきたら小さな籠に入れます。五百円を見ると「アジアの友達のことかと思われず、皆さんにもお勧めしたいと思えます。「教区のために」を心がけていると買

物のときに五百円が気になり始めます。月一回と限定するのではなく五百円と出合うたびに籠に入れます。月に何回か試してみてください。生活が困窮するようであれば月一回にしたらいいと思います。が、そうでないとしたら、皆さんの毎月の維持費の額を直ぐに上回ることに気がつくと思います。このやり方だと「収入のある人が複数いても一人分の維持費しか納めない」という現状を克服することもできると思います。また、年金受給者や子供たちにも五十円なり百円なりお願いしたら家族みんなが教区のプロジェクトに参加することができそうです。とくに、後に続く子供たちには教会に対する具体的な心遣いを育てる効果があります。「大事なごミサのために奉仕してくださいる神父様への感謝のしるし」という説明も子供たちには大切な宗教教育になります。この機会に、「世にある教会のありさま」が家族の話題に上ることを期待します。五百円元年が魔法の秘策となることを祈りつつ...

新風

「主の降誕祭」から始まった降誕祭の「主の洗礼」の主日で終わります。主の洗礼とは三十歳になったイエス様が、宣教活動を始めたことを記念する日です。そうすると降誕祭とは、赤ちゃんで生まれたイエス様が、三週間目には大人になって天の父から授かった使命を開始する年頃になるまでの期間であると言えます。これは典礼暦上の話で、実際にはイエス様の宣教生活は三年間だけでしたので、三十歳になるまでのイエス様の人生は時間的にはその十倍に当たります。

旧約と新約のはざ間で

植物の成長や動物の生態などを利用したたとえ話や当時のことわざ、処世訓などを引用した話は、この準備期間に習得なさったに違いありません。何よりも人間の現実の生活を学ばれたのはこの時期でした。一方、人間について言え

「言うておくが、あなた方の義が律法学者やファリサイ派の人々の義にまさっていないければ、あなた方は決して天の国に入ることはできない」(マタイによる福音書五章20節)とはイエス様の言葉です。(H・N)

お知らせ

坂本進神父の(日)「ホリスティック黙想—整体と信仰」日時:1月17日(月)10時~12時 参加費:500円 (月)「ホリスティック・スピリチュアルケア講座—不安と心の安らぎ」日時:1月18日(火)18時30分~21時 参加費:1,000円 ※いずれもザビエル教会1Fホール

岐部祭に参列して

阿久根教会 岡本ひろ子

秋晴れの十月十六日(土)朝早く、大口教会のレヒナ神父さまと十七人の一行は、「ペトロ岐部と一八七殉教者の列聖を求めて祈りたい」との望みを心に、一路大分県国東半島へとマイクロバスに乗り込みました。

阿蘇の谷間を大口教会の綾部先生の名ガイドのもと、歌あり、笑いあり、おしゃべりあり、そして食欲あり：もちろん祈りも。二、三か所の名所を巡り、その日は別府のカリタス修道院に一泊させて頂きました。新しく美しい設備、美味しい食事、明るいシスターたちのほほ笑みで、疲れた体を癒すことができ、翌朝、国東半島のペトロ岐部神父記念公園へと向かったのです。

縛された穏やかなペトロ神父の二つの像が目に飛び込みました。その二体の像の間、山の中腹には十字架があり、それを見た私は心が震えるような衝撃を受けました。ご受難のイエズスさまではなく、復活されたイエズスさまが緑深い山を背に私たちを見下ろしておられたのです。

と人々への愛をしつかりと伝えてくれました。昔の信仰者の歴史としてだけではなく、今も尚、今だからこそ、私たちのために信仰のあるべき姿を示し、祈りとメッセージを送り続けてくださっているのだと確信しました。

掲示板

★カトリック看護協会の2011年「血圧測定」の予定は以下の通りです。谷山教会(1月16日)、紫原教会(2月20日)、ザビエル教会(3月20日)、玉里教会(4月17日)、鴨池教会(5月15日)、始良教会(6月19日)、吉野教会(7月17日)、加世田教会(9月11日)ご利用下さい。

★現在、インチョンカトリック大学で学んでいる教区の神学生ドミンゴさんとアントニオさん(韓国人)の祭壇奉仕者選任式は2月6日(日)ザビエル教会の午前9時のミサの中で行われます。



すが、部屋のドアには当時訪れた子供たちの名前がA4サイズ紙に〇〇ちゃんと言われ、そのまま貼ってありました。

ワット神父様の兄弟から姪家族にいたるまでの歓待に、如何に司教様が敬愛されているかが伺え、嬉しさを感じました。

今回の旅で、もう一つ、私にとって幸せだったのは、鹿児島教区の教区目標について司教様の考え方を聞きできたことです。司教様の答えは明瞭でした。司教叙階式で示した「それ

郡山司教団長
ティエン神父同行
ベトナム巡礼
3月20～24日(4泊5日)
鹿児島発 148,000円
巡礼委員会(徳永)
☎090-3669-0423

私は人生の中で「まず聖霊を求めよ。その他の物は増し加えられて与えられる」や「求めよ。さらば与えられん」が実現するのを何度となく体験したように思います。私が聖霊に祈るようになったきっかけはIさんの存在だったと思います。

「死んでも生きる。もはや死は苦しみではなく、永遠の喜びなのです。目指すのは天のみです」とペトロ岐部神父さまに教えられた気がし、涙があふれました。時代は移り変わりましたが、同じ信仰を生きた私たちが、どこが違うのでしょうか。

九州大会での出会いから、私は「祈りの集い」を自宅で開くようになりまし。しかし私の家は姉からもらったものを移築したものでしたので、雨漏り被害だけでなく白蟻にもや

の殉教とのことでした。ミサはルイス司教様と郡山司教様の共同司式で司祭の数超える信徒が集い、実に盛大かつ荘厳なミサでした。

で祈ってもらうことにしました。しかし、それでも何も変化はありません。それならばと家族全員で「具体的に分かるようにして欲しい」と祈ったのです。

すると家内の母の初盆で奄美に帰ったとき、義兄から一階を自宅にする三階建てのアパートを建てることを勧められたのです。義兄の助けもあり、建築士、銀行と話ほとんどん拍子に進み家が建てられました。

物置にのら猫の生み捨てし子猫日々鳴声の細り行くあわれ
苦難越え白寿のめぐみ主のみ手に清しく眠る秋の夕暮れ

九州大会での出会いから、私は「祈りの集い」を自宅で開くようになりまし。しかし私の家は姉からもらったものを移築したものでしたので、雨漏り被害だけでなく白蟻にもや

の殉教とのことでした。ミサはルイス司教様と郡山司教様の共同司式で司祭の数超える信徒が集い、実に盛大かつ荘厳なミサでした。

で祈ってもらうことにしました。しかし、それでも何も変化はありません。それならばと家族全員で「具体的に分かるようにして欲しい」と祈ったのです。

の殉教とのことでした。ミサはルイス司教様と郡山司教様の共同司式で司祭の数超える信徒が集い、実に盛大かつ荘厳なミサでした。

で祈ってもらうことにしました。しかし、それでも何も変化はありません。それならばと家族全員で「具体的に分かるようにして欲しい」と祈ったのです。

の殉教とのことでした。ミサはルイス司教様と郡山司教様の共同司式で司祭の数超える信徒が集い、実に盛大かつ荘厳なミサでした。

物置にのら猫の生み捨てし子猫日々鳴声の細り行くあわれ
苦難越え白寿のめぐみ主のみ手に清しく眠る秋の夕暮れ

九州大会での出会いから、私は「祈りの集い」を自宅で開くようになりまし。しかし私の家は姉からもらったものを移築したものでしたので、雨漏り被害だけでなく白蟻にもや

の殉教とのことでした。ミサはルイス司教様と郡山司教様の共同司式で司祭の数超える信徒が集い、実に盛大かつ荘厳なミサでした。

で祈ってもらうことにしました。しかし、それでも何も変化はありません。それならばと家族全員で「具体的に分かるようにして欲しい」と祈ったのです。

の殉教とのことでした。ミサはルイス司教様と郡山司教様の共同司式で司祭の数超える信徒が集い、実に盛大かつ荘厳なミサでした。

で祈ってもらうことにしました。しかし、それでも何も変化はありません。それならばと家族全員で「具体的に分かるようにして欲しい」と祈ったのです。

の殉教とのことでした。ミサはルイス司教様と郡山司教様の共同司式で司祭の数超える信徒が集い、実に盛大かつ荘厳なミサでした。

物置にのら猫の生み捨てし子猫日々鳴声の細り行くあわれ
苦難越え白寿のめぐみ主のみ手に清しく眠る秋の夕暮れ

九州大会での出会いから、私は「祈りの集い」を自宅で開くようになりまし。しかし私の家は姉からもらったものを移築したものでしたので、雨漏り被害だけでなく白蟻にもや

の殉教とのことでした。ミサはルイス司教様と郡山司教様の共同司式で司祭の数超える信徒が集い、実に盛大かつ荘厳なミサでした。

で祈ってもらうことにしました。しかし、それでも何も変化はありません。それならばと家族全員で「具体的に分かるようにして欲しい」と祈ったのです。

の殉教とのことでした。ミサはルイス司教様と郡山司教様の共同司式で司祭の数超える信徒が集い、実に盛大かつ荘厳なミサでした。

で祈ってもらうことにしました。しかし、それでも何も変化はありません。それならばと家族全員で「具体的に分かるようにして欲しい」と祈ったのです。

の殉教とのことでした。ミサはルイス司教様と郡山司教様の共同司式で司祭の数超える信徒が集い、実に盛大かつ荘厳なミサでした。

物置にのら猫の生み捨てし子猫日々鳴声の細り行くあわれ
苦難越え白寿のめぐみ主のみ手に清しく眠る秋の夕暮れ

九州大会での出会いから、私は「祈りの集い」を自宅で開くようになりまし。しかし私の家は姉からもらったものを移築したものでしたので、雨漏り被害だけでなく白蟻にもや

の殉教とのことでした。ミサはルイス司教様と郡山司教様の共同司式で司祭の数超える信徒が集い、実に盛大かつ荘厳なミサでした。

で祈ってもらうことにしました。しかし、それでも何も変化はありません。それならばと家族全員で「具体的に分かるようにして欲しい」と祈ったのです。

の殉教とのことでした。ミサはルイス司教様と郡山司教様の共同司式で司祭の数超える信徒が集い、実に盛大かつ荘厳なミサでした。

で祈ってもらうことにしました。しかし、それでも何も変化はありません。それならばと家族全員で「具体的に分かるようにして欲しい」と祈ったのです。

の殉教とのことでした。ミサはルイス司教様と郡山司教様の共同司式で司祭の数超える信徒が集い、実に盛大かつ荘厳なミサでした。

物置にのら猫の生み捨てし子猫日々鳴声の細り行くあわれ
苦難越え白寿のめぐみ主のみ手に清しく眠る秋の夕暮れ

九州大会での出会いから、私は「祈りの集い」を自宅で開くようになりまし。しかし私の家は姉からもらったものを移築したものでしたので、雨漏り被害だけでなく白蟻にもや

の殉教とのことでした。ミサはルイス司教様と郡山司教様の共同司式で司祭の数超える信徒が集い、実に盛大かつ荘厳なミサでした。

で祈ってもらうことにしました。しかし、それでも何も変化はありません。それならばと家族全員で「具体的に分かるようにして欲しい」と祈ったのです。

の殉教とのことでした。ミサはルイス司教様と郡山司教様の共同司式で司祭の数超える信徒が集い、実に盛大かつ荘厳なミサでした。

で祈ってもらうことにしました。しかし、それでも何も変化はありません。それならばと家族全員で「具体的に分かるようにして欲しい」と祈ったのです。

の殉教とのことでした。ミサはルイス司教様と郡山司教様の共同司式で司祭の数超える信徒が集い、実に盛大かつ荘厳なミサでした。

物置にのら猫の生み捨てし子猫日々鳴声の細り行くあわれ
苦難越え白寿のめぐみ主のみ手に清しく眠る秋の夕暮れ

みことばシリーズ⑱

求めよ、さらば与えられん

終身助祭 久保俊弘

の集い」に参加するようになりまし。そしてその数か月後には九州大会へも足を運ぶようになり、そこで多くの霊的に素晴らしい方々と出会うことができました。

れていた粗末なものでメンバーにも不自由をかけていました。そんな中、カトリック作家の神崎先生の「韓国では大きな家が必要なきときは皆で祈って神様に願う」と聞いたのを思い出し、皆

忙し中主を待ち望む十二月
バテレンの墓に挿したり残り菊
初冠雪降誕祭を祝うかな
霧島市 政ノブ子

純心学園 川上 和
月さえてうまやの平和我うちに
出水市 沖 弘子
授かりし小春日の空シドツチ祭
愛光園 春山マリ子
編み物を編めば冬まで暖まる

愛光園 春山マリ子
人は皆厳しく強く生きるもの本当は辛い
そう思う日々
鹿児島市 前田 儀子
よきことの兆しあることあざやけき冬の
虹の弧海の辺に消ゆ

大笠利 稲 牛憲
純心学園 川上 和
北風のささやく
島の木立が萌ゆる
小高き丘の
館の道を登れば
笑みかける灯火が
み心を書き
凛々しまん
若水あふるる
新玉の 水面に写す
主の館は
詩聖を示し群れ人の
幸せを呼ぶ
祈りの声がこだまする